弥生地区「住みよいまちづくり」に向けた集い
令和２年度第５回定例会（第２２回）報告

日　　時　　令和２年１２月２０日（日）午前１０時～１１時３０分
場　　所　　多摩の里 けやき園 地域交流スペース
担　　当　　司会：佐々木智恵子　次第作成：沖原寧子　記録：事務局
参 加 者　　１６人（敬称略・順不同）
〈地区８名〉
山口信夫、沖原寧子、齋須照夫、杉本博嗣、佐々木智恵子、加藤京子
喜村秀子、瀧田寿美恵
〈関係者５名〉
市福祉総務課 明日係長、市防災防犯課 井上主査、
市生活文化課 瀬戸口係長
多摩の里けやき園 金井島施設長
西部地域包括支援センター 野島生活支援コーディネーター
〈社協３名〉
大澤次長、岡野主査、江連主任
配布資料　　（１）次第
（２）住みよいまち弥生 会則（案）２０２０．１２．２０
（３）「住みよいまちづくり」に向けた集い 令和元年度の取り組み
（４）新聞記事：避難支援者 地域で確保 ほか
（５）地域でつながろう！「氷川台自治会」
(CLUB くるめラ MAGAZINE2020.10～12 月号)
（６）自治会だより 第１１７号（氷川自治会）

・　はじめに

司会より、次第の集まりの目的を読み上げ全員で確認。
関係機関・社協、初参加となる東久留米市市民部生活文化課市民協働係 瀬戸口恵美係長より挨拶：市と市民団体のそれぞれの特性を活かして力を合わせて目標に向かって進んでいくことを啓発するのが市民協働係の大きな目的。消費者センター、自治会などを担当している。(冊子「暮らしの豆知識」を配布)

体温測定、手指の消毒、座席の距離の確保、定期的な室内の換気のもとで話し合いをしています

・　情報提供

〇市内で先駆的に活動している氷川台自治会について紹介された。

【氷川台自治会の取り組み】（生活文化課 瀬戸口氏・司会）

・東久留米駅北口から北に向かって線路沿いを歩いた住宅地が自治会の地域。
・前会長が就任した時、空き家が多いこと、足の不自由な高齢者が増えていることから様々な取り組みを開始。増加する空き家を地域の資源としてとらえ、庭を農園として利用し、収穫した野菜を売る直売所をつくった。この取り組みは、全国的に見ても先進的な取り組みとして注目されている。
・地域の方が交流できるように集会所で子育てサロンや麻雀大会、そば打ち教室、認知症カフェなどを定期的に開催して地域のつながりづくりをすすめてきた。
その結果、自治会加入率が９５％になっている。
・以上の実績から内閣総理大臣賞を受賞、NHK 首都圏ネットワークでも紹介され全国から注目されている。
・要援護者避難訓練の記事を含めて「東久留米のふれあい情報サイト くるくるチャンネル（https://kuru-chan.com/）」に頻繁に記事を掲載している。「住みまち弥生」も「くるくるチャンネル」を活用いただきたい。また「ＦＭひがしくるめ」毎週木曜日午前１１時から氷川台自治会ラジオ回覧板という番組があるので聞いてみてほしい。
・前会長に会いにいって話を聞いたことがある。定年退職されてから会長になった際、地域に何も活動がないことを知り、男性らで集まって飲んでいるときに一緒にやろうとなり、一念発起してテコ入れしたとのこと。

【氷川台自治会の要援護者訓練】（防災防犯課 井上氏）

・避難所が地区から坂下の場所にあり、高齢者は避難がままならないことから自治災害時は在宅避難が前提となっている。
・要援護者とは、障がい者・子どもや妊産婦・外国人など災害時の避難など身を守ることが難しい援護が必要な方。自治会では要援護者に対し、何かあったら助け合う有志による支援隊を組織している。
・訓練では、まず隊員による安否確認を実施する。道路に囲まれた街区を支援隊が３～４人が分担し、事前登録した家に訪問する。特に支援が必要な状況でなければ黄色の布や紙を玄関先に下げておくルールがあり、でていなければ支援隊が訪ねて安否を確認する。安否確認後、集会所となりの公園に集合し、訪ねても応答がない、ケガをしているなど情報を集めるまで実施。
・実施当初は、なかなか浸透せずうまくいかなかったと前会長は言っていたが、５、６年続けていたら、何となくみんなに意識が浸透している。今年、訓練に参加して思うのは、前回は見たことなかった人が支援隊ジャンパーを着てまわるなど、活動の輪が広がっていることがわかった。遡って考えると、弥生地区での子どもたちやご近所への声かけから助け合いへとつながってくるのではないか。

１　今年度の取り組み

① 会則・名簿づくり

【会則（案）について】（事務局より補足説明）

・次第「関連情報」のとおり、この集まりでは平成 30 年度より災害時に配慮が必要な方の支援、地域防災について検討するため市防災防犯課長より防災説明会、災害時要援護者避難支援計画についての説明会を開催している。

・同課長より、災害時に地域で助け合う前提として、まず自分自身の身を守ることが大切とのことから、ＡＥＤ・応急救護体験、応急担架の作り方・搬送体験を定例会や秋まつりにおいて実施している。

・別紙 朝日新聞記事「避難支援者 地域で確保」について、当初から継続して定例会に参加している石川勝一氏から資料提供と意見あり、新たに「第３条 活動の内容」に明文化した。

司会より、会則（案）全文を読み上げ後、全員で意見や修正について協議し、以下のとおりとなった。

○「第8条 役員」に「(4)書記 1人」を加え、「(5)その他スタッフ 若干名」に修正

○「第8条 役員」に「役員の任期は1年とする。ただし、再任はさまたげない。」を追加

○ 役員は、代表世話人：山口信夫 会計：沖原寧子 書記：瀧田寿美恵

世話人：加藤京子、喜村秀子、齋須照夫、佐々木智恵子、杉本博嗣

○ 名簿は、今後お互いに連絡できるよう役員間に限り氏名・住所・連絡先を共有する。

○ 次回定例会の開催日を会則の施行日とする。

以上の修正等をもって、参加者全員で会則を承認した。

② 子どもたちやご近所への声かけ「あいさつ隊」

・弥生地区で児童・生徒に住民であいさつすることについて、西中学校には報告のみで了解をいただいた。

・第九小学校は、１２月初めに事務局とともに訪問し、校長先生と副校長先生に話をしたところ、「ありがたい」と好評だった。

・校長先生としては、弥生地区に限らず全地域でやってほしい。朝だけではなく、下校時間にも声かけをしてほしいとのことだった。下校時に公園で不審者から声をかけられた事案があったことを聞いた。

・「子どもを見守る」ということならば、田無警察署に会則・名簿を提出すれば腕章や防犯グッズをいただけるとの話を伺った。本格的に始めるのであれば、書類を警察署に提出すれば良いのではないか。

　田無や小平警察署の情報を得ていると、かなり不審者情報がある。その中にはただ声をかけられただけというのも含んでいる。あいさつしただけで不審者にみられないように、区別できるようにしたほうが良いと思う。

・子どもに挨拶する時、近所のおじさんだとわかるものがあったほうが良い。住まいのまわりに子どもがいる家庭があるが、声がけすることはためらう時がある。「おはよう」とか言うが非常に難しい。隣の子どもだとこちらも知っているから「おかえり」と声かけできる。隣の３軒ぐらいは積極的に声かけしていく。周りの大人から、子どもたちへ声をかけていくことが大切だと思う。近所がお互いに助け合うことが大切だと思う。
・顔見知りの近所であればよいが、自治会に入っていない、付き合いがない、子どもが外で遊ぶこともないから顔を合わせないとなると、知らないおじさん・おばさんになる。声かけすれば、親に知らない人から声かけられたと親に伝わり、警察に話がいきかねない。腕章やベストなどがあれば、声かけすることは正しい行動だという気持ちになるし、防犯活動なのだという意識にもなる。
・地区内に新しい家が十数件建った。中国や韓国の方で親は 30 代の家族がある。ある日母親が病院にいくからと子どもたち６、７人を預かったことがある。そういう家庭もあれば、妻と一緒に子どもに声をかけたら、母親が出てきて「うちの子に声をかけないでくれ」と言われた。不審者と思われたのか、コロナを気にしてなのか理由は分からないが、そうなると勝手にしてくれと。その家庭の子どもは横断歩道を渡っていないが、もし車にひかれたとしても助ける必要はないのかなと思う。中国や韓国の人は日本の風習がわからない。「私は不審者ではない」と、誰にでも分かるようにしておかないといけない。

○ 会則･名簿が決定次第、田無警察署や市防災防犯課へ防災グッズの申請をすすめる。

② その他 今後の活動

・できるかどうかわからないが、冬休みに「もちつき大会」はできないか。
・ＰＴＡとしては、コロナ禍において子ども対象で集まるイベントはやめていただきたい。学校にも保護者は入れない状況で学校公開もできず、運動会もできない。ミニスポーツ大会も保護者が校内に入らないというルールのもと、一家庭何人までと人数制限をして行事をしている。
・コロナ禍で大人数が集うのは当面無理だと思う。できることとしては、例えば氷川台自治会のように、地域の安全のために見まわりをするなどではないか。
・「住みよいまち 弥生」を発足にするにあたり、今回会則を定めて役員を決めた。こうした活動を知ってもらうこと、関心がある方や力を貸してくれる方は一緒にやりましょうという内容のニュースレターがあると良い。

○ 次回の定例会にてニュースレターのサンプルを確認する。集合写真を撮影する。

２　情報交換（気になること、困っていること、取り組んでいること）

・地域の見守りをしているが、寒くなってきたのとコロナの関係で外に出てこないので会えない。電話をかけて安否確認しないといけない。高齢者一人住まいが多いのでいつも気になっている。夜、自宅まで行って電器がついているか、雨戸が締まっているかを確認しようと思うと寒い中出ていかないといけない。見守り協力員をやっているので一生懸命がんばっている。

・以前に別の地域で「元気です」との合図として黄色の旗を出すところがあった。また、ヤクルトさんが定期的な配達で見守るサービス『ひとりぐらし高齢者乳酸飲料配布』(65 歳以上の在宅で、ひとり暮らしの方を対象に、安否確認のため乳酸飲料を週 4 回（月曜日、火曜日、木曜日、金曜日）配布。申請にあたり、緊急連絡先として近隣に住む２人の協力者が必要）がある。せっかく住みよいまちづくりをするのだから、何とか上手に見守る負担を減らすことも検討したい。
・小・中学校の子どもたちは、学校の中では変わらず元気に楽しく過ごしている。微笑ましくみている。私はこの若さで引きこもりになっている。学校に行って、子どもたちから活力をもらっている。本当にごめんなさいというくらい引きこもりになっている。どうしてもテレビを見すぎてしまい、過剰にコロナ関連情報が入って過敏になることが困りごとかも。早くコロナが落ち着いて、昔の日常が戻って欲しいなと思う。
・事務局から配達済みの『住みよいまち弥生 あいさつ隊』を身に着ければ区別できるので、不審者に間違えられないためにお使いいただきたい。また、会則を定めて各所に届け出すれば、ベストなどの備品を借りられるということなので、今は大勢が集まることはできないが、進められることがあるのかなと思う。会則を定めて進めていきたい。
・コロナに対する危機意識の差が今まで付き合ってきた人たちの中であり、関係がぎくしゃくしてくる。生活環境が変わり、今まで知らなかった性格がでてきたり、人間関係がちょっと怖くなった。今は精神的に病んでいる人が多いらしい。特に一人暮らしでちゃんと働いている方でも、危機意識の差をすごく感じます。交流する中で良い関係だったのに、なぜこんなことを考えなくてはいけないのかと。コロナは様々なことに影響を及ぼしている。みんな大変だと思うから、そうなってしまうものだと理解しているので、知らない人から声をかけられるのにも敏感になっているのではないか。自分を守ることで精一杯になっている。そういうところで日々疲れる。

　近い将来に希望を持って、様々なイベントを企画したい。ただ今は、コロナでみんな神経過敏になっているので、そういうことを受容しながら、やさしい挨拶をしていきたい。私は朝の時間は無理そうなので下校時間帯にしたい。
・「あいさつ隊」の活動は浸透していないが、地道に活動していけば意識してもらえるようになると思う。意味ないとか言われたとしてもそれは流して、集う仲間で気持ちを共有して続けていければ良い。
・孫ができたので、こうした集まりに出ると「気をつけて、外出を控えて」と言われる。家族が過敏で困っている。

　『住みよいまち弥生 あいさつ隊』をさっそく自転車に掲示した。小学生、中学生が帰ってきたら、大きい声で「おかえり」と声をかけられるので、とても嬉しい。中学生は、部活が終わって帰ってくると暗くて一人では危ないと思う。
・子どもたちへの声かけをやりましょう。
・弥生地区の元民生委員の内田さんが、11 月に「青少年健全育成功労者」として都知事から表彰された。

３　その他

・現在、サロン活動は３月までお休みしている。集まりをやれば無理して出てくる。その中でもし感染拡大したら、けやき園にも迷惑がかかる。他の集まりも中止している中、どうしても定例会はやらなければならなかったのか、心が痛む。コロナ禍では、２か月１回の集まりにこだわらなくてもよいのではないか。場合によっては中止にすることも考えたほうがよい。
・少ない人数で様々なことを決めてよいものなのか。もう少し自治会員が集まってくれないものか。何とかみんなで周りに話をして、引っ張り出してきてほしい。
・社協では、今まで様々なグループや団体が設立されて立ち上げに関わらせていただいたが、最初は２、３人で気の合う人が集まり、そこから始まる活動がたくさんある。当初、集まる人数が少なかったとしても、続けていくことで活動がまわりの人に見えてきて「じゃあちょっと行ってみよう」、「良い内容があるから誘ってみよう」と引っ張りやすくなる。今はコロナ禍であり、まずは会則をつくり、春から夏を下準備として基盤をつくっておけば、ぶれずに新たな活動に踏み出せるのではないか。
・自治会員全員に浸透する方法を話し合うことが大事ではないか。「今度、集まりがあるから一緒にいかないか」と誘っても「そんなものやっているのか、知らない、何をやっているのか」と聞かれると「いったいなんなのだろう」と思う。そんなことではめげないが、こうして集まっていることを何とも思っていない。「回覧でお知らせがあったけど、今度は何があるのか」とたずねてくれる人もいるが、ほとんどは知らないという感じで流されてしまう。
・同じ思いであるが、まずは自分ができることをやることから始まると思う。配達書類を事務局から預かった時、いつ配ったらタイミングがよいか考え、誰かに会えるだろうと思って前日に配達したが誰にも会えなかった。今後は「こういう集まりがあるよ」と話をして、来てもらうようにしようと思う。
・「来て下さい」と言っても、すぐにはなかなか来てくれないと思う。継続して集まりをもって、一人ひとりが取り組みを近所の人たちに何回も話をして、何年かかるかわからないけど、人が増えていくのではないか。とにかく自分だけでも来ていれば何とかなるだろうと。この気持ちを忘れたら「もういかなくてもいいかな」、「しゃべることないからやめておこう」となるが、それではだめかなと思って参加している。中国のことわざで「隗より始めよ」（大事をなすには手近なことから着手せよとの意。転じて、言い出した者から始めよとの意）とあるように、まずは参加しようと思っている。今日、会場にきた時は誰もきていなかった。自分一人でイスやテーブルを並べていて、ひょっとして自分だけの参加かなと不安に思った。みんなが集まってくれて良かったと思った。
・事務局では、毎回定例会のお知らせや報告、会則案も過去に定例会に参加いただいた方５０件ほど、皆さまに配達をしていただいている。地区内４つの自治会にも同様に配達しているが、全ての自治会が回覧しているわけではない。なお、今回の会則（案）は、修正等意見があれば定例会の前に事務局へ連絡いただくよう全員に案内し、寄せられた意見を反映したものである。

次回の役割分担

○ 会場予約：加藤京子
○ 司会：瀧田寿美恵
○ 次第・ニュースレター案：沖原寧子

（次回）３月１４日（日）午前１０時から正午（２月２１日開催を延期）
場所：多摩の里 けやき園 地域交流スペース（弥生 2－1－18）

（追記）定例会後、石川勝一さんより事務局へ「住みよいまち 弥生」趣旨に賛同、世話人として参画するとの意思表明をいただきました

以 上